



原爆死没者慰霊碑に献花し追悼の祈りをささげる栃木市の中学生たち。6日午前、広島市中区、平和記念公園

非核の祈り 次世代へ

本県中学生も静かな決意

広島は6日、72回目の「原爆の日」を迎えた。平和記念式典が行われた広島市中区の平和記念公園では、本県から派遣された中学生らが式典を見守った。「平和の尊さを伝え続ける」。本県の遺族代表の出席は高齢化などで昨年に続きかなわなかったが、代わって次世代を担う若者たちが平和の決意を新たに示した。

(佐野恵)

とちぎ

平和を考える
ヒロシマから

原子爆弾投下と同時刻の午前8時15分。荘厳な「平和の鐘」がこだまする会場で、参加者は1分間の黙とうをささげた。そして平和宣言の後、一斉に放たれたハトが青い空を悠々と舞った。

今年初めて式典に派遣されたさくら市の中学生も神妙な面持ちで見届けた。喜連川中3年の石井亮伍さん(14)は参加者の多さに「被爆の被害の大きさを痛感した」。氏家中3年の岡崎結平さん(14)は「外国の方も多く、世界中から注目されていることが分かった」と表情を引き締めた。全国の被爆者は高齢化が

進む。平均年齢は3月末現在で81・41歳。「ここで学んだ自分たちが平和の尊さを伝え続ける」。栃木市から派遣された西方中2年、古平柚葉さん(13)は式典中、何度も涙を拭いた。会場周辺では、平和関連のイベントが数多く催された。その一つ、被爆ピアノのコンサートを毎年裏方で支える那須町出身で広島市在住の版画家君島龍輝さん(61)は「広島にとって8月6日は特別な日。平和の祈りを世界中で共有したい」と犠牲者を悼んだ。

原爆死没者慰霊碑の先で風になびく「平和の灯」は、「核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けよう」と1964年に点火された。先月、核兵器の保有や開発を初めて法的に禁止する「核兵器禁止条約」が国連で採択され、核兵器廃絶に向けた機運が世界中で高まる。人類史上初めて原爆が投下された「ヒロシマ」は、核兵器がなくなるその日を待っている。